

処方意図が不明な多剤投薬と薬識不足によるアドヒアランス不良患者への対応

【入院時処方内容】				【退院時処方内容】			
薬剤名（一般名）		規格	1回量 用法	薬剤名（一般名）		規格	1回量 用法
1	ファモチジン口腔内崩壊錠	20mg	1錠 寝る前	1	ファモチジン口腔内崩壊錠	20mg	1錠 寝る前
2	エピナスチン塩酸塩錠	20mg	1錠 寝る前	2	アンプロキソール塩酸塩錠	15mg	1錠 毎食後
3	ピオフェルミン配合散	1g	1g 毎食後	3	エドキサバントシル酸塩錠	30mg	1錠 朝食後
4	デキストロメトルファン臭化水素酸塩錠	15mg	1錠 毎食後	4	カルベジロール錠	2.5mg	1錠 朝夕食後
5	アンプロキソール塩酸塩L錠	45mg	1錠 朝食後	5	イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合錠	HD	1錠 朝食後
6	ペボタスチンベシル酸塩口腔内崩壊錠	10mg	1錠 朝夕食後	6	シロスタゾール口腔内崩壊錠	100mg	1錠 朝夕食後
7	エドキサバントシル酸塩錠	30mg	1錠 朝食後	7	プロチゾラム錠	0.25mg	1錠 寝る前
8	イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合錠	HD	1錠 朝食後	8	タムスロシン塩酸塩口腔内崩壊錠	0.2mg	1錠 朝食後
9	シロスタゾール口腔内崩壊錠	100mg	1錠 朝夕食後				
10	カルテオロール塩酸塩錠	5mg	1錠 朝夕食後				
11	プロチゾラム口腔内崩壊錠	0.25mg	1錠 寝る前				
12	タムスロシン塩酸塩口腔内崩壊錠	0.2mg	1錠 朝食後				
13	メコバミン錠	500μg	1錠 毎食後				
14	麦門冬湯エキス顆粒	3g	1包 毎食後				
15	レバミピド錠	100mg	1錠 毎食後				

  

内服薬：15種類	薬剤管理：本人管理
服薬回数：4回	服薬支援：無し

  

内服薬：8種類	薬剤管理：本人管理
服薬回数：4回	服薬支援：一包化

【患者情報】 80歳代 男性 入院患者 （入院期間：34日）

診療科：整形外科

主疾患	腰椎変性側弯症				
病歴	高血圧、狭心症、脳梗塞、DVT、胃潰瘍				
生活状況・入院契機など患者背景	身長166cmの患者。腰椎変性側弯症の手術目的のため当科入院。ADL自立、入院前は独居で服薬管理は自己で行っていた。持参された薬剤はすべてヒートで持参され残薬はバラバラ、本人もよく飲み忘れ有りアドヒアランス不良。				
認知症	なし		介護認定	なし	
薬剤有害事象	なし	( )	副作用歴	なし	( )
アドヒアランス	極めて不良	( )	アレルギー歴	なし	( )

【入院時情報】

体重 66.5kg。お薬手帳持参無し。持参薬はすべてヒート処方。

初回指導で本人から入院前の服薬管理について伺ったところ、服用薬剤が多いことで、薬を用法通り飲めず薬効が不明

であり薬を減らして欲しいという希望有り。入院前の血圧コントロール状況は、他院がかかりつけのため不明であった。

入院時の検査値:AST 46U/L ALT 18U/L CRE 0.69mg/dL e-GFR 82mL/min/1.73m<sup>2</sup>

### 【key word】

薬学的な管理の実施、入院時の持参薬鑑別、薬歴聴取による処方提案、定期的な処方見直し、多職種との連携  
退院指導時の情報提供によるアドヒアランスの向上・維持

### 【処方見直し前の問題点】

処方意図不明、症状緩和のため不要な薬剤が多数有（本人の減薬希望有り）  
①ファモチジン錠 処方意図不明 高齢者の安全な薬物治療ガイドラインによると、ファモチジンの漫然投与はせん妄のリスクが高いと記載有り。  
②エピナスチン錠 処方意図不明に加え抗コリン作用・ふらつきリスクあり  
⑥ペボタスチンベシル酸塩錠 処方意図不明に加え抗コリン作用・ふらつきリスクあり  
⑩プロチゾラム 高齢者であり翌日持ち越しの不安あり  
処方意図不明（③ピオフィルミン配合散、④デキストロメトルフアン、⑬メコバラミン ⑭麦門冬湯 ⑮レバミピド）

### 【処方提案の具体的な内容】

服用薬剤を少なくし、アドヒアランス向上に努める。  
①ファモチジン 紹介状には胃潰瘍の既往歴が無く、胃部不快感等の症状も無いため不要と判断し主治医に処方削除ならびに症状が再燃した場合は処方再開を提案する。  
②エピナスチン錠と⑥ペボタスチンベシル酸塩錠は、花粉症などのアレルギーに対して長年服用していたが、アレルギー症状が無く、症状緩和薬剤であり不要と判断し、主治医に処方削除ならびに症状が再燃した場合は処方再開を提案する。  
⑩プロチゾラム口腔内崩壊錠 高齢者であり翌日持ち越しの不安があるが、毎日服用されており、翌日の持ち越しやふらつきが認められないことから、採用薬のプロチゾラム錠で継続とした。  
③ピオフィルミン配合散 本人の服用中止の希望強く、下痢等の消化器症状ないため不要と判断し主治医に処方削除提案する。  
④デキストロメトルフアン 咳などの呼吸器症状が無いため不要と判断し、主治医に処方削除提案する。  
⑬メコバラミン しびれなどの症状無いため不要と判断し、主治医に処方削除提案する。  
⑭麦門冬湯 処方意図不明、本人の服用中止の希望強く、咳などの症状も無いため不要と判断し、主治医に処方削除提案する。  
⑮レバミピド 処方意図不明、消化器症状無いため不要と判断し、主治医に処方削除提案する。

### 【多職種との関わり】

職 種	主な連携内容
医師	退院時薬剤情報提供書にて情報提供
保険調剤薬局	退院時薬剤情報提供書にて情報提供

### 【減薬後の経過】

入院中に薬剤師提案による不要薬剤の削減を積極的に行った。  
ファモチジンは一旦中止したが、後の面談の際に、胃潰瘍再発の不安と胃部不快感を本人が訴えたため、再開となった。PPIに変更することも可能ではあるが、本人がファモチジンに対する執着が強いため変更せず。エピナスチン、ペボタスチンベシル酸塩錠の中止後もアレルギー症状は認められなかった。ピオフィルミン配合散を中止後、便秘に一時なったが、酸化マグネシウムの単回使用で対応出来たため、退院時には処方されなかった。麦門冬湯エキス顆粒、デキストロメトルフアン中止後も呼吸器症状変化なく、本人からも症状悪化などの訴えもなく経過した。レバミピド中止後、消化器症状変化なく、本人からも症状悪化などの訴えもなく経過した。メコバラミン中止後、しびれ等の症状にも変化がなかった。結果、上記7剤は中止継続のまま退院となった。服用薬剤が減り、退院薬はすべて一包化することで退院後のアドヒアランス向上に努めることが出来た。また、薬剤数が少なくなったことで薬効の理解につながり、薬識向上も図ることが出来た。入院中に薬剤整理した内容を薬剤情報提供書として、お薬手帳に貼付し、かかりつけ医、かかりつけ薬局へ情報提供した。